



Title	河西石窟調査行動記録（2023年度）
Author(s)	佐藤, 貴保; 坂尻, 彰宏
Citation	石窟史料からみた敦煌オアシス地域の研究. 2024, p. 51-59
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/94652
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

河西石窟調査行動記録（2023年度）

佐藤 貴保（記録）・坂尻 彰宏（編集）

8月20日（日）出国

調査に参加する赤木崇敏・岩本篤志・橘堂晃一・坂尻彰宏・佐藤貴保・島津弘は、成田国際空港で各自チェックインし、搭乗口で合流。

16:40 西安行き航空便離陸。

19:50 西安咸陽国際空港着陸。天気は雨。入国審査にやや手間取る。空港内のホテルにチェックイン。

8月21日（月）肅北・五个廟石窟調査

4:30 ホテルをチェックアウト。第2ターミナルに移動。空港内は人が多い。

6:10 敦煌行き航空便離陸。席は9割がた埋まる。若い人が多い。今年はコロナ規制がなくなり、7月から個人で敦煌に旅行する人が激増しているものの、団体客は大幅に減っているらしい。昨日の雨はあがっている。離陸後すぐに

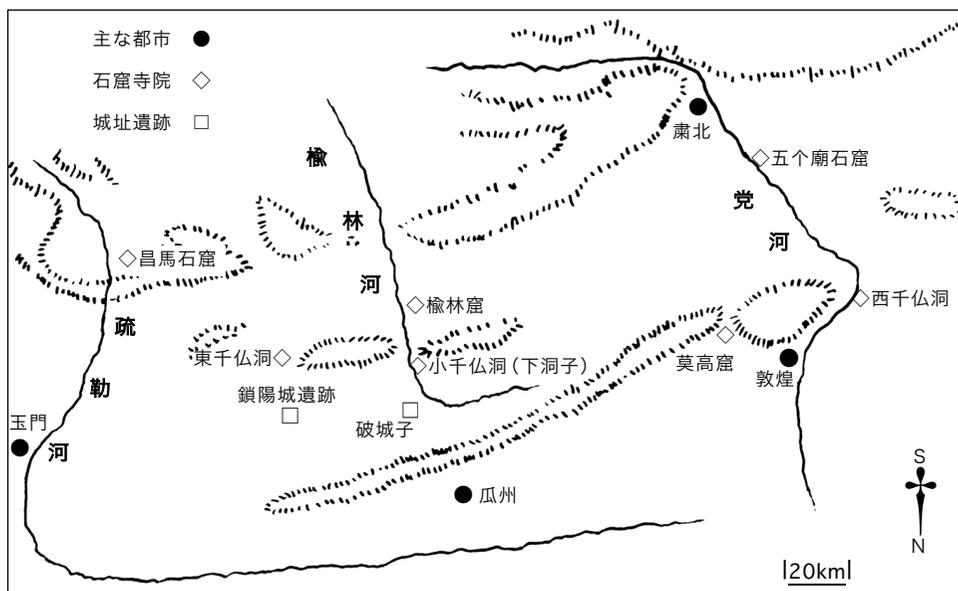


図1 敦煌オアシス地域の石窟の分布

雲に覆われ、黄河を渡る頃から雲が切れ始める。祁連山脈の上を飛ぶ。南斜面の雪はあまり多くない印象。

8:25 敦煌莫高空港に着陸。天気快晴、気温 22℃。

8:50 ワゴン車で空港を出発。敦煌市街までの道中、甘粛省以外の省からの自家用車を多く見かける。この後、敦煌滞在中にチベットと香港、マカオ、吉林以外の自家用車を見かけた。G213 は、途中からバイパスに切り替わっており、市街地を通っていない。

9:05 ホテル着。ロビーでミーティング。

9:56 ホテルを出発して車で西へ向かう。敦煌の郊外には葡萄、トウモロコシ畑が広がる。

10:10 七里鎮をすぎて周囲は砂漠になる。

10:21~33 光電園展望台から太陽熱発電所を見学。

10:47 西千仏洞前を通過。左手に党河ダムが見える。この後、玉門関への道、陽関への道と分かれ、上り坂を西へ進む。10:58 陽関駅前通過。

11:01 柳格高速沙峽園 IC から G30 に乗り粛北へ向かう。対向車は無く、車 1 台に抜かれただけ。

11:13 高速本線を離れ、粛沙一級公路 (S12) に入る。周囲は半砂漠。

11:37 五个廟 PA 通過。進行方向左奥の山脈に雪が見える。傲包あたりから左手に草地が増えてくる。

11:54 旧道 (G571) と合流。その後党河を渡る。川の水は多くが用水路に運ばれている。



図 2 五个廟付近の党河の溪谷

12:13~14:07 粛北に到着後に昼食。天気晴れ、12:00 の気温 25℃。

14:10~16 党河の橋を渡る手前の巴音路 35 番地で党河を観察。その後高速道路への道に戻り、S303 に入る。

14:39~49 五个廟展望台で党河の溪谷を見る。ここから石窟は見えない。対岸に数本の砂嵐が見える。4m 位の西風が吹いている。



図 3 五个廟石窟

14:55 五个廟石窟駐車場で下車。党河河岸まで下りて石窟を下から遠望。

15:37 車に乗って西千仏洞へ向かう。高速道路への道が壊されており、S12 経

由で 16:10 に肅北 IC に入る。

16:42 沙棗園 IC で下りて、G213 を東へ。西千仏洞の開放時間に間に合わず、翌日訪問することにする。

17:40 ホテル着。天気快晴、21:00 の気温 19°C。

8 月 22 日（火）莫高窟・三危山・西千仏洞調査

7:30 天気快晴、気温 17°C。

8:38 ホテルを出発。

8:50 敦煌莫高窟数字展示中心の前を過ぎる。中心の駐車場に多くの車が止まっている。一般客はここからシャトルバスで莫高窟に向かう。

9:07 莫高窟前駐車場で下車。シャトルバスが 30 台ぐらい止まっている。ここから敦煌研究院の許可を得て三危山へ向かう。

9:57 三危山の麓の仏塔に着く。側に地震観測所がある。

10:40 さらに登って南天門に着く。莫高窟を見下ろす。天気曇り、東風が強い。ここから別の道を歩いて下山しようとするが、舗装道路が数年前の大雨で崩壊し、崩れた道路跡を慎重に歩き、

11:45 に麓に戻る。

12:15 駐車場に戻る。そのあと敦煌石窟文物保護研究陳列中心を 13:00 まで見学。館内はごった返す。

13:15 九層楼（莫高窟第 96 窟）前で莫高窟を遠望。莫高窟は世界ジオパークにも登録され、近くの科普広場に説明板多数。



図 4 南天門から莫高窟を望む

13:35 駐車場を出発。敦煌市街へ向かう。

14:02～38 敦煌市街で昼食。その後西千仏洞へ向かう。途中 15 分ほど車の給ガスで停車。

15:33 西千仏洞到着。駐車場から党河河岸の入口に向かう。羊が放たれている。

16:00～26 第 19 窟を調査。石窟番号は霍熙亮番号。なお、西千仏洞の石窟番号の整理の経緯については樊・蔡 2007 参照。

16:27～50 第 16 窟を調査。

17:04 乗車して瓜州に向かう。天気快晴、気温 24°C。



図 5 西千仏洞

- 17:17 七里河鎮の手前で右折し、鳴沙山沿いを走る。月牙泉前は混雑。
 18:02 敦煌 IC で高速道路に乗る。
 18:50～19:04 瓜州 SA で休憩。ハミ瓜は 1 個 25 元と高い。
 19:17 瓜州南 IC を出る。道端で瓜売りの露店がいくつか出ている。トウモロコシの収穫が進んでいる。
 19:30 瓜州のホテルに到着。気温 21℃。

8 月 23 日（水）榆林窟調査

- 9:05 ホテルを出発。天気快晴。8:25 の気温 18.3℃。
 9:19 瓜州南 IC 前通過。東側にメロンやスイカを露店が数店。青海、四川など甘粛省以外の省の自家用車とよくすれ違う。最初の山に入ると、ゴビの方舟なるモニュメント、続いて漢の武帝の顔の塑像が数 km の間隔で置かれている。山を下りると大地之子の像に多くの人が群がっている。半砂漠の中のタマリスクがところどころ花を咲かせている。
 9:45 鎮陽城鎮のロータリー通過。ここにも露店が出ている。この先の道路は舗装がはがれてガタガタの道が数 km 続く。
 10:22 榆林窟に到着。天気快晴。川岸の入り口へ向かう。
 10:59～11:45 第 12 窟を調査。調査中、多くの観光客を見かける。今年は 1 日 2600 人も観光客が来場した日もあったらしい。
 12:38 榆林窟を出発。
 13:00 榆林ダムへの道との分岐点の少し東で「小千仏洞」と書かれた文物保護単位の標識を発見。小千仏洞は下洞子石窟の別名である。そのままダムの方へ向かう。ダムへの道は未舗装。
 13:11 榆林ダムの手前で引き返す。水はほとんど用水路に流れている。用水路の水の流れはとても速い。
 13:45 榆林窟への道の分岐点に戻る。
 14:00～53 鎮陽城鎮のロータリー近くで昼食。天気曇り、気温 24℃。東風 3～4m。昼食後、瓜州に向けて出発。途中、車の不具合で 30 分ほど停車。
 15:56 瓜州南 IC 前通過。
 16:20～17:07 県政府前の瓜州県博物館を見学。民国期の酒泉地域の地図を展示する企画展を観覧。
 17:15 ホテルに到着。19:00 の気温 26℃。



図 6 榆林窟

8月24日（木）鎖陽城遺跡調査

- 9:02 ホテルを出発。天気曇り、気温 14°C。東の風 2~3m。事情により、本日より予定していた東千仏洞の調査は取りやめ、鎖陽城遺跡の調査のみとする。
- 9:16 瓜州南 IC 前通過。鎖陽城遺跡まで 44km の標識あり。
- 9:44 鎖陽城鎮のロータリーを左折。X270 号線を東に進む。トウモロコシ畑は農豊村辺りまで続くが、そのあと半砂漠や草原が広がる。鎖陽城遺跡が近くなると、ポプラ並木とタマリスクの半砂漠が現れる。
- 10:06 鎖陽城遺跡の駐車場に到着。天気は曇り、気温 19°C。東風 5m くらいだが、だんだん強くなり、砂埃が舞う。遺跡は開場しているが、見学に必要な電動カートの始発は 10:30 とのことで、しばし待機。見学者は 30 人くらい。
- 10:30 カートで遺跡へ。内城西北角の城壁に上がる。
- 11:00~25 カートに再び乗り、西の塔児寺へ。現在発掘調査が進んでおり、その成果がカート乗り場に掲示されている。
- 11:45 鎖陽城遺跡を出発。
- 12:03~13:00 鎖陽城鎮で昼食。
- 13:05~37 破城子遺跡の外周を調査。外周が柵に覆われている。城壁の崩落を防ぐために、下部を木材で支えているところもある。
- 14:15 瓜州市街中心部の玄奘取経博物館に到着するも、管理人が不在で引き返す。途中でこの地特産の白いメロン（銀蒂）やハミ瓜、スイカを買う。
- 14:40 ホテル着。天気晴れ、16:00 の気温 20°C。

8月25日（金）昌馬石窟調査

- 8:00 ホテルを出発し、淵泉街をしばらく東に向かう。天気快晴。途中「玄奘大道」なる大通りを横切る。
- 8:17 瓜州 IC から連霍高速（G30）に乗る。入口に多数のトラックが並んでいる。高速に上がると、右手に畑、左手に砂漠が広がる。5km ほど進んで敦煌へ向かう柳格高速と分かされると、右手も砂漠に変わる。
- 8:53 右手にのろし台。このあたりから進行方向の右 10km ほど先に林が連なって見える。高速鉄道の高架をくぐり、すぐに鉄道の蘭新線をまたぐ。
- 9:02 橋弯西 IC 通過。その後、進行方向右に河道が見える。地図によると、疏勒河らしいが、水は流れておらず、川床とみられる窪地には緑が広がる。
- 9:07 橋弯 IC 通過、右手に橋弯城が見える。左右は砂漠、左手には多数の風車が見える。
- 9:20 この先しばらく、道路の左右にベニバナやヒマワリの畑が広がる。10km ほど進むと、進行方向の右奥に山影が見える。疏勒河を渡る。川幅は数 m。

9:41 玉門 IC で高速を降り，市街地の右端を南下する。G312 に入る。天気曇り。路面がぬれており，直前まで雨が降っていたらしい。トウモロコシ畑が広がる。このあと，風光大道に入り，再び鉄道の蘭新線をくぐって南下を続けると，「大唐玉門風電場」なる風力発電のエリアに入り，風車が道の左右に無数に立っている。

10:03 風光基地を左折し，S 238 に入る。4km ほど進むと左手に小規模な水力発電所が 2～3km おきに現れる。上り坂が続き，途中で坂が急になる。斜面は半砂漠。ラクダ 1 頭を目撃。道は山の中を縫うように走る峠道に，斜面には砂防ダムが建設されている。「車路溝大坂」が峠で，そのあとは下り坂が続く。

10:50 昌馬石窟着。周囲には小麦畑が広がり，収穫の真最中。駐車場には日本語の説明文も併記された観光案内板がある。

10:59～11:35 急な階段を上り，第 2 窟を調査。天気は曇り。北東方向にダム湖が見える。

11:35～12:17 第 4 窟を調査。

12:32 昌馬石窟を出発。まもなく小雨が降り出す。

12:44～13:33 昌馬村で昼食。昼食後，嘉峪関市に向けて出発。

14:22～27 休憩。東に水力発電所が見え，その奥には崖が見える。砂漠だが，角の無い石が多い。

15:00 鉄道の蘭新線をくぐって G312 に入る。

15:03～26 玉門 SA で休憩。

15:43 玉門 IC を通過。周囲は砂漠になり，風車も無くなる。この先，進行方向の右手に高速鉄道，左手に高速道路を見ながら，緩やかな上り坂が続く。

15:58 赤金 IC から高速道路に入る。左手 5km ほど先に赤い山が見える。6km ほど進むと進行方向の右手に耕地，左手に草原が広がる。さらに 8km ほど進むと左手も耕地に変わるが，その後 30km ほど進むと再び周囲は半砂漠となる。10km ほどで下り坂になり，左手にトウモロコシ畑が広がりだす。右



図 7 昌馬石窟



図 8 昌馬石窟からの眺望（東向き）

手に並走する G312 は長い渋滞。

16:45 黒山湖 IC で高速を下り、G312 に入る。ダムの手前で酒泉へ向かう G312 と分かれ、嘉峪関へ向かう X257 に入る。周囲は半砂漠。

16:53 進行方向の左手に火力発電所、つづいて嘉峪関の城郭が見える。蘭新西路から嘉峪関市街地に入る。

17:03 ホテルに到着。天気曇り。

8月26日(土) 文殊山石窟調査

7:33 ホテルを出発。天気快晴。南に向かう。南湖地区を通過し観礼古鎮に入る際に水たまりを渡るが、これが北大河の本流であるらしい。次第に山が迫ってくる。その後 S305 に入り左(北)に線路とその奥に畑、右に木の生えていない山を見ながら上り坂を進む。8時過ぎに右折して祁豊河大橋を渡る。橋の下を流れる洪水河は水流が無い。川原幅は 150m くらい。下流側はその幅がもっと広い。左右にチベット文字と漢字を併記した店の看板が増えてきた。肅南裕固族自治県祁豊蔵族郷に入ったとみられる。洪水河の河道と並走しながら車は上る。

8:17 文殊山石窟の後山区に到着する。券売所の観光案内版は中国語・英語・チベット語・韓国語で書かれている。

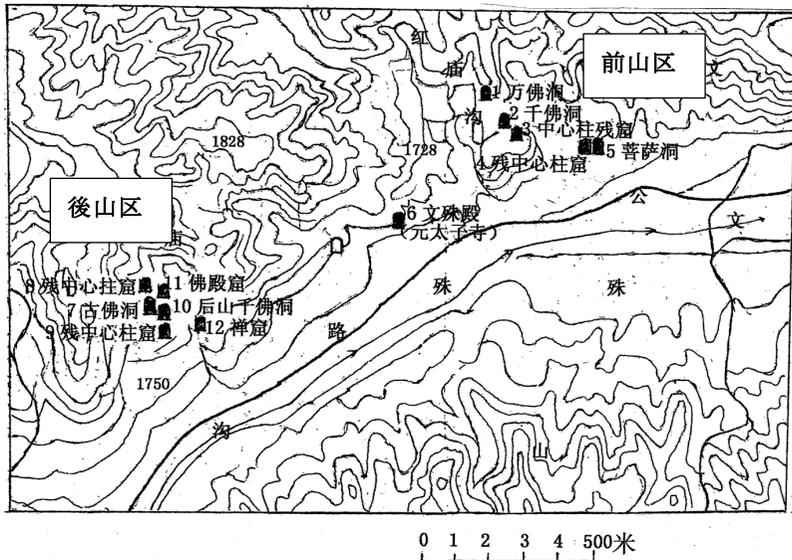


図9 文殊山石窟分布図(張2016, p. 98, 図1に加筆)

8:30～44 入場して後山千仏洞入口で職員を待つ。境内は観光用に整備がされている。待機している間に北魏時代開鑿という開放窟を見るが、近年重修されたものとみられる。なお、現状では文殊山石窟の石窟番号は必ずしも統一されていない。以下に主な研究書の石窟番号の対照表(表1)を掲載する。本記録では通称と『河西北朝石窟』と『文殊山石窟』の番号を用いる。両書ならびに『文殊山石窟研究』の書誌は本記録の文献表参照。

表1 文殊山石窟番号対照表(李 2022, p. 102, 表 3-1 を基に作成)

『河西北朝石窟』 『文殊山石窟』	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
『文殊山石窟研究』	19	29	30	32	31	x	73	77	67	69	70	88
通称	前山 万仏 洞	前山 千仏 洞			文殊 殿		後山 古仏 洞			後山 千仏 洞		後山 禪窟

9:35～41 後山古仏洞(第7窟)調査。

9:44～58 後山千仏洞(第10窟)調査。

10:03 車で前山区へ向かう。

10:10 前山区前で下車。

10:14～48 前山万仏洞(第1窟)調査。

10:51～11:09 前山千仏洞(第2窟)調査。

11:16 酒泉へ向け出発。

11:32 祁豊河大橋を渡って直進し、嘉峪関市文殊村に入る。周囲は梨やネクタリンが栽培されている。次の塔湾村からはトウモロコシやヒマワリの畑が広がる。途中、張掖空港から西安へ向かう飛行機(所定 17:25 発)の出発が2時間遅れるとの連絡が入る。

11:49 酒泉市肅州区の市街地に入る。

12:10～13:40 市街のレストランで昼食。天気快晴。食事後肅州路を南下し酒泉ICで高速に乗る。周囲にトウモロコシ畑が広がる。

13:49 酒泉東JCT通過。宇宙センターへ向かう高速道路と分かれる。

13:55 総寨ICあたりで右手に祁連山脈がところどころ雲に隠れながら見える。



図10 文殊山石窟後山区

山頂部に積雪がある。10kmほど進むと上り坂になり、畑が尽き、砂漠が広がる。下河清ICを過ぎたところから下り坂になり、左手にも山が見えてくる。右手の山の麓は林が続いている。清水ICを過ぎると左右に畑が広がるが、6kmほど進むと周囲は半砂漠となり、それが6kmほど続く。さらに5kmほど進むと進行方向左手遠くに大きな緑地帯が見え、その奥にうっすらと山脈が見えた。右手は砂漠が広がる。この後、梧桐泉ICまで下り坂が続き、左手の緑地が次第に近づいてくる。右手は半砂漠。いったん上り坂になるが7kmほど進むと再び下り坂に。

- 15:07~37 高台SAで休憩。スイカを食べる。トラックや行楽客とみられる自家用車で駐車場はほぼ埋まっている。SAの周辺は半砂漠。出発後20kmほど進んだあたりから再び両側に農地が広がる。
- 16:01 臨沢IC通過。丹霞IC過ぎると、進行方向左手に山脈がはっきり見えるようになる。甘州ICを過ぎてすぐに黒河にかかる橋を渡る。黒河の水は数mの幅でわずかに流れている。張掖の市街地の南端を通過していく。
- 16:33 張掖東JCTで西寧方面へ向かう張汶高速(G0611)に入る。「扁都口88km」と標識にはある。周囲は農地が広がる。扁都口に近い山丹軍馬場は近年民営の牧場に変わり、扁都口も外国人が訪問できるという。
- 17:13 張掖空港到着。天気曇り。
- 19:35 西安に向かう航空便離陸。窓から砂漠の中に円形の明らかに人工的に作られた耕地が見える。収穫はすでに終わっているようである。頂上付近に積雪のある祁連山脈上空を飛び、その後日没となり、20:30頃には蘭州の市街地と思われる細長い街の夜景が見えた。
- 20:57 西安咸陽国際空港に着陸。天気は雨。気温22℃。空港内のホテルへ。

8月27日（日）帰国

- 9:20 帰国便が西安咸陽国際空港から離陸。天気雨。
- 14:20 成田国際空港に着陸。天気曇り。着陸前からゲリラ雷雨が起きている箇所が視認できた。気温29℃。到着ロビーにて解散。

【文献表】

- 樊錦詩・蔡偉堂 2007 「敦煌西千仏洞各家編號説明」『敦煌研究』2007-4, pp. 34-35.
- 張宝璽 2016 『河西北朝石窟』上海, 上海古籍出版社.
- 姚桂蘭（主編）2019 『文殊山石窟』蘭州, 甘肅人民美術出版社.
- 李甜 2022 『文殊山石窟研究』蘭州, 甘肅教育出版社.